

**(2) 共生の関北 \* 他者との違いを受け入れ、それに学び、多様性を尊重しながら、共に生きようとする心と豊かな絆を育む**

これからの変化が大きな社会では、自らの考え方や生き方などを確立した上で、多様な考え方や自他の価値観の違いを受け入れ、認め合い、そこから新たな考え、智恵、価値等を産み出していくことが求められます。それが共生の精神であり、自己有用感を感じ、互いに尊敬し合い、共に生きる喜びを得たり、相手を受け入れる広い心を育てたりすることにもつながります。

そのためには、我々教師自身が「研ぎ澄まされた」人権感覚をもち温かい心と言葉が通い合う環境づくりに努めることが欠かせません。学級経営・専科経営等の中で、「我が事のように、我が子同然に」という合言葉を共有し、全ての児童や保護者の心のひだに寄り添っていきましょう。特に、子供たちが有する「発達の特性」に照らし合わせた「特別支援教育の充実」は重要であり、このことを中期的な視野をもって推し進めてまいります。保護者や地域社会の方々への啓発を図りつつ、生活指導や特別活動、特色ある教育活動などとの関連も視野に入れながら、豊かな心・問題解決能力・確かなコミュニケーション力・自らの未来を豊かに切り拓いていく力などをもった子どもたちを以下により育てたいと考えています。

方針	中・長期目標	短期目標	具体的方策	評価規準	評価方法	評価主体
共生の関北	オリンピック・パラリンピック教育の推進 *コミュニケーション能力・人間関係調整力・社会貢献意欲等の育成	人とかかわる力を育む実の場としての交流活動の推進 *障がい者理解を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種交流活動の実施</li> <li>*異学年交流・高齢者〔鶴寿会〕との交流・障がい者との交流等</li> <li>関係施設や団体との連携による福祉学習の充実</li> <li>*第二光陽苑・やすらぎの杜・リサイクルセンター・アイメイト協会 等</li> </ul>	<p>各種の交流活動が学年に応じて実施されたか。</p> <p>関係施設や団体との交流を通し、福祉学習が促進されたか。</p>	<p>実施状況</p> <p>交流状況</p>	<p>児童</p> <p>各施設・団体関係者</p>
		社会の発展、文化の形成に積極的に関わろうとする社会貢献意欲の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害の被災地や感染症対策に取り組む人々と自分とのつながりをもとにしたボランティアマインドの形成</li> </ul>	<p>子ども自身が災害等に向き合い、何ができるかを考え、実践していこうとする意欲を高められたか。</p>	<p>実施状況</p>	<p>児童</p> <p>教職員</p> <p>地域住民</p>
共に生きようとする心と豊かな絆を育む	社会性・規範意識の向上 教育課題への迅速・確実・誠意ある対応 *存在感・所属感・達成感・自己有用感の育成	「ひとりをみんなで」・「学校・家庭・地域ぐるみで」を視点とした生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導上の関北スタンダードの活用</li> <li>4つの「あ」〔あんぜん・あいさつ・あつまり・あとしまつ〕の徹底</li> </ul>	<p>関北スタンダードの活用により4つの「あ」について、児童の意識が高まってきたか。</p>	<p>生活状況</p> <p>生活状況</p>	<p>児童</p> <p>保護者</p>
		人権課題についての学習実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別的視点、普遍的視点からの授業実践</li> <li>人権感覚チェックシート等の活用</li> </ul>	<p>人権教育プログラムや年間指導計画に沿って指導されたか。</p>	<p>週ごとの指導計画</p>	<p>児童</p>
		教育相談的機能の充実 *構成的グループエンカウンター〔SGE〕、ソーシャルスキルトレーニング〔SST〕等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>SGE、SST、コーチング等の研修会の実施及び授業実践</li> <li>「いいところ見つけ」活動の徹底〔全学級での実践を継続する〕</li> <li>教育相談的配慮シート等の活用</li> </ul>	<p>SGE等に対する研修を通して、教員の意識が高まったか。</p> <p>「いいところ見つけ」を通して、児童の自己有用感及び自尊感情の向上が見られたか。</p>	<p>自己評価シート</p>	<p>教職員</p> <p>児童</p>
		いじめ・児童虐待等の未然防止と早期発見・的確な対応 〔学校いじめ防止基本方針の活用〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談〔対保護者・対児童〕や日記等による「児童との対話」の継続</li> <li>専門家を活用した組織的な対応の継続</li> <li>年3回の「楽しい学校生活のためのアンケート」及び夏季休業明けの「夏休みのアンケート」の分析及び有効活用</li> <li>いじめ防止授業の全学級実施での継続</li> <li>練馬区がいじめ撲滅事業の活用 等</li> </ul>	<p>担任と児童との個人面談が年度中に適宜実施され、児童の心に寄り添った対応ができたか。</p> <p>アンケートにより、課題把握や相談員等の活用が図られたか。</p> <p>いじめ防止授業や〇〇づくりを通して、児童のいじめ撲滅への意識が高まったか。</p>	<p>アンケート</p>	<p>保護者</p> <p>児童</p>
		特別支援教育の充実 (次年度学校経営計画の根幹に据える)	<p>東京都教育委員会特別支援教育第3次推進計画の推進</p> <p>「発達の特性」を才能と捉える意識の醸成</p> <p>全職員で建設的・肯定的に関わる意識の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育研修会の実施</li> <li>校内委員会の積極的な活用</li> <li>特別支援教室〔あおぞらルーム〕の活用</li> <li>特別支援教育コーディネーターの活用</li> <li>巡回指導教員や関係諸機関との連携</li> <li>*拠点校 子ども家庭支援センター 児童相談センター SSWR 等</li> </ul>	<p>研修会が開催され、「あおぞらルーム」「おひさまルーム」が効果的に活用されたか。</p> <p>関係機関との連携が図られ、児童への支援体制が深まったか。</p>	<p>実施状況</p>